

青森高等学校 生徒の声を受け生まれた、外国人を招くイベント企画の模擬体験教材（青森県）

実施体制の概要

- 全校生徒数：約836名
(うちSGHは約520名とする)
- SGH対象学科：
1年生全員、2、3年生文系全員を対象とする
- HP：http://www.aomori-h.asn.ed.jp/
(SGHの取組はこちら：
http://www.aomori-h.asn.ed.jp/sgh/index.html
SGH委託費用総額：約3,645万円
(H26-H30 970万円～540万円/年で推移)
- 校内の体制：カリキュラムマネジメントを行う校内全体の
キャリア推進委員会と校務分掌としての探究学習部
- 国内連携機関：
青森中央学院大学、弘前大学等と連携
- 連絡先
staima-nobuhito@m05.asn.ed.jp
☎ 017-742-2411

何を目指したか

- ロジスティックス戦略を契機に、批判的的判断能力、発信力など
5つの力を備えたグローバル人材の育成

ツールのポイント

- 1 インput重視の授業では育てるべき力の育成ができない、つまらない、との
生徒の声を受け、リアルなイベント企画を国内で味わえる教材を開発
- 2 教員、生徒各々に授業の目的を示しイベント実施が目的化しないよう留意

SGH事業実施に
必要だった資源

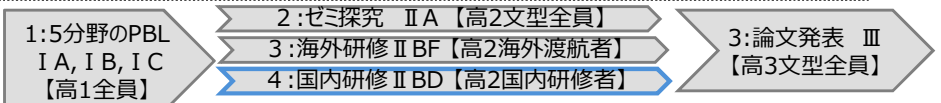
- 人員** ■特段の人員追加はなく、5種のゼミ活動の1つとして、ゼミ担当教員（教員全員）が担当
- 金銭** ■SGH予算は海外フィールドワークで3割、授業成果の審査委員などの外部講師の謝金、旅費等で1.5割、研究会・発表会・フィールドワークへの生徒派遣で2割程度に活用
- 時間** ■SGH以外の予算で研究会・発表会へ生徒を派遣
- 心理** ■リアルな教材を作るために正しい条件書を作成する必要があり、バーチャルユースフォーラムの教材開発には200時間程度を要した
- 事業にあまり協力的でない教員の理解・参画を得ることには時間がかったが、学校内で孤立しないように配慮

Plan

ツール作成の背景

- H26年度、27年度は年間15回程度外部講師を招くインプット中心の授業を実施し、海外フィールドワークに行くこと自体が目的化していた
- 生徒間でも負担が大きく、つまらないとの声があり、希望制をとると希望数も年々減少
- H27年度後半から、育てたい能力を再定義（5つの能力）、授業の改良、対象範囲の変更を開始。海外研修に行かない生徒も、国内で外国人との触れ合いを意識した課題解決型の学習機会を確保

SGH事業計画の流れ



※PBL：課題解決学習、青太樟が本ツールを活用した授業

Do

ツールの解説

- ✓ バーチャルユースフォーラム教材一式
- ✓ バーチャルユースフォーラム指導案

- 取組概要** ■4泊5日で世界の高校生が集まるユースフォーラムの企画運営を任されたスタッフとして、スタッフマニュアル、プランを作成する授業。成果をJICA等の外部講師から評価させ、この授業で活用する教材と指導案を掲載
- 6名のメイン教員と生徒がどのような力を育成するためにこの取組を行っているか共通認識を持ち続けられるよう、ビジョンを基盤とした目的、審査項目が設定
- 成果** ■生徒、外部講師共に好評で、SGH指定終了後も全学的に継続

✓ CAN-DOリスト

- 取組概要** ■SGH開始時には3つの能力を定義していたがロジスティックス戦略以外のテーマでも育てたい汎用的な能力として、批判的的判断能力、発信力、協働能力など5つの力を8段階で評価する項目を設定
- 各取組実施の際の基盤となる目標に
- 成果** ■28年度に対象変更をし、それを受け回答方法は29年度から単純な自己評価ではなく、「やってみた結果」を振り返らせており、現時点では比較が難しいが、H30年度とH29年度を比較すると4つの能力が低下傾向にあり

Check

取組内容の評価

- 学校内部の評価だけでなく、外部評価により取組の活性化、生徒の意欲向上がもたらされると考え、バーチャルユースフォーラムなどの授業でも外部審査委員が生徒の取組を評価する仕組みを構築（これまでは高い評価を得ている）
- SGH参加効果について保護者の85%以上から、異文化理解、視野拡大等に役立ったと評価される。OBからも高い評価を受けており、取組継続に賛同する声が多い

Action

指定期間終了後のいま

- 基本的に継続しており、テーマもSDGsに転換し活動を活性化させている
- H28年度からは持続可能性を意識し、謝金が不要な外部講師に積極的にアプローチ、海外渡航費も同窓会費などが支援
- R1年度はクラウドファンディングをテーマに生徒とともに資金集めを検討中